

## 日本生体医工学会 2021 年度第 2 回理事会議事録

日時：令和 3 年 8 月 30 日(月) 14:00～17:00

会場：ME 試験事務局内 会議室 (CE コーポレーション)

### <出席者>

理事長： 守本 祐司  
副理事長： 木村 裕一  
理事： 横澤 宏一、中島 章夫

### <Web 出席者>

副理事長： 成瀬 恵治  
理事： 川田 徹、平田 雅之、松田 哲也、中島 一樹、坂田 泰史、黒田 知宏、  
松村 泰志、村垣 善浩、塩澤 成弘、杉町 勝、井村 誠孝、  
山家 智之(兼 東北支部長)、大城 理(兼 関西支部長)、芦原 貴司、堀 純也  
監事： 阿部 裕輔、中沢 一雄

### <オブザーバー・出席者>

幹事： 坪子 侑佑、木村 雄亮  
事務局長： 磯山 隆  
オブザーバー： 大橋 俊朗(北海道支部長)、杉原 伸宏(甲信越支部長)、  
渡邊 英一(現東海支部長)、家入 里志(九州支部長)、  
原口 亮(専門家別研究会評価委員会)、椎名 毅(第 60 回大会長)、  
荒船 龍彦(若手研究者活動 WG 長)、堀 潤一

### <欠席者>

理事： 佐久間 一郎(兼 関東支部長)、  
監事： 望月 修一  
オブザーバー： 嶋津 秀昭(北陸支部長)、石原 謙(中国・四国支部長)、  
坂本 信(第 61 回大会長)、  
福岡 豊(生体医工学編集委員長)、王 鋼(ABE 編集委員長)

### <理事会議題>

#### 0. 理事会の成立 守本理事長

定款 34 条 2 項に則り、理事総数 21 名の 1/2 にあたる定足数 10 名を超える 20 名の出席と監事 2 名の出席を確認したことから、本理事会は成立した。

## 1. 2020 年度学会財務の纏め【報告 B】 木村副理事長

2020 年度決算に基づいた学会の財務状況について報告された。COVID-19 禍の影響により、2020 年度始めに 257,550,584 円あった総財産は、2020 年度末には 221,881,908 円となったため、35,668,676 円減少した。そのうちの法人会計については、収入が 9,226,510 円、支出は 6,096,819 円であり、312 万円の黒字となった。これは主に、理事会などのリモート参加に伴う交通費減少、及び貸し会議室の使用がなくなったためである。公益事業のうち、会費収入は 2019 年度に 879 万円だったが、会員増加に伴い 2020 年度は 885 万円に増加している。一方、試験事業は、2019 年度は 523 万円の収入があったが、2020 年度は 2,625 万円の赤字となった。これは ME2 種試験を中止したことの影響が大きい。なお、ME 試験の公益性に鑑みて可能な限り実施するという方針であったことから、COVID-19 感染拡大の兆候が出た早期での中止の決定を行わなかったものであり、この方針は、理事会での審議に基づいたものである。また、公益事業毎の収支については、一般に収益を期待した運営は行っていないことから赤字となるが、2020 年度には 2019 年度より赤字額が 780 万円増えている。この主な原因は、大会、生体医工学シンポジウムが、COVID-19 感染蔓延の下で開催方式を急遽遠隔に変更したためである。この旨は、当時の理事会で審議され、学会活性化のためのやむを得ない支出増であることが認められている。以上より公益事業において赤字が発生しており、これが総財産減少の大きな要因となっている。上述の通り、法人会計については黒字を達成しているため、健全性維持のためには公益事業の収支を改善する必要がある。

上記のように総財産は減少したが、未だ 2 億円以上残っており、枯渇するほどではない。また、COVID-19 蔓延前の 2019 年度には、公益事業において 150 万円の黒字を達成していることから、平時であれば学会の運営は順調であると考えられる。しかし、教育・試験事業基金 6,000 万円から 3,800 万円を取り崩すことで、試験事業での減収額 3,348 万円を補填し、更に支出及び収入の発生は非同期であることから、支出のための手元現金を確保するために、事業安定化基金 5,497 万円から 1,000 万円を取り崩している。これら約 4,800 万円の取り崩した基金の復活は今後の課題であり、学会の活性化を通して会員の増加を図ると共に、時期を見て会費の増額も検討する必要がある旨が報告された。

## 2. 日本人工臓器学会及び日本在宅血液透析学会との合同の現状【報告 S】 木村副理事長

臨床工学技士会連携 WG の活動報告と活動予定について報告された。臨床工学技士領域と日本生体医工学会は専門領域が共通しており、ME 技術実力検定試験や ME 専門認定士資格を介した関係が深く、連携を図ることは学会の活動方針の一つである。これまでに日本臨床工学技士会の IFMBE 加入を実現し、日本生体医工学会の全国大会及び生体医工学シンポジウムへの参加によって臨床工学技士認定制度・専門資格のための単位取得を実現してきた。

今後は、臨床工学技士領域との研究面での連携強化を図る必要がある。臨床工学技士領域の臨床現場からのニーズを把握し、これに基づいて医工学シーズを提供するという研究の流れを学会

が提供できれば、医工学領域の研究の活性化を図ると共に、臨床工学技士からの学会入会が期待できる。よって2021年度は、在宅での循環補助及び血液透析を対象とした研究体制確立の模索、大会及び生体医工学シンポジウムへの臨床工学技士の参加の勧奨を進めている。

なかでも、臨床工学技士領域との研究面での連携を進めるため、領域に関係の深い、守本 裕司 先生、中沢 一雄 先生、横澤 宏一 先生、堀 純也 先生、中村 実 先生、辻 義弘 先生でWGを構成することとした旨が報告された。

またこれまでに、在宅での補助人工心臓、及び血液透析治療の普及に向けた活動を進めている。2020年11月の第58回日本人工臓器学会大会で合同シンポジウムの第1回を開催し、在宅人工臓器治療の問題点に対する議論から研究開発の必要性に対して両学会間で共通認識を得た。続いて第60回日本生体医工学会大会では、日本人工臓器学会、日本在宅血液透析学会からの講演を通して、生体医工学領域に対するニーズ提起が具体的に行われた。現在、これに基づいて、臨床系と医工学系との研究のマッチングを進めている。補助人工心臓については、血圧異常の検出手法を検討予定である。血液透析では、血圧監視、体動などからの異常発生監視、導入教育で実施される血管穿刺手技習熟のための補助システム、血管穿刺のための補助システムの開発を検討しており、既に一部は、日本在宅血液透析学会との連携の下、臨床測定のための準備に入っている。なお、以上は、2021年1月に設立した、在宅人工臓器治療研究会の活動として進めている。今後は、2021年11月の第59回日本人工臓器学会大会での合同シンポジウム、及び、第61回日本生体医工学会大会でのシンポジウムで途中経過を発表する予定である。

これまでの臨床工学技士の方々へのインタビューでは、学会発表や論文発表の機会の提供を学会に求める声が強かったことを受けて、大会及び生体医工学シンポジウムへの参加を臨床工学技士へ積極的に呼びかけると共に、臨床工学技士セッションを設けるなど、特に養成校からの発表を勧奨する企画を行う。臨床工学技士領域では、都道府県毎に技士会があり、夫々に独自に活動しておられる。そこで、WG構成員が所属する都道府県技士会を中心に、発表の勧奨を進める旨が報告された。

上記に対して、日本人工臓器学会、日本在宅血液透析学会との協同から、臨床工学領域との実質的な連携が進んでいることと、臨床工学技士の業務も在宅医療にシフトしてきている部分があり、今後、日本生体医工学会の経験、知見が活かせることが期待できるため、引き続きご協力いただきたい旨が守本理事長より報告された。

### 3. 第60回日本生体医工学会大会の収支（案）【報告 T】 椎名第60回大会長

第60回日本生体医工学会大会の終了報告として、収支案が報告された。

今大会は第60回日本生体医工学会大会・第36回日本生体磁気学会大会の合同開催であったことから、事前に両学会での覚え書きを定め、参加費を同額とすること、運営経費における収支を会員数比で案分することが取り決められた。

2021年2月の予算案の時点では、参加者が800人、600人得られた場合の収入・支出をシミュレーションし、どちらの場合も黒字となる見通しが立ったため当該案にて準備を進めた。これに対し、2021年8月22日時点の収支計算書においては、完全オンライン化による会場費減、プロ

ジェクタ等の機器関係費減による支出減が行えた。また、現地スタッフの先生方のご尽力によりシステム構築・運営を 150 万円程度に抑えられたことが奏功し、結果として 5,216,104 円の黒字とすることができた旨が報告された。参加者計は 890 名であり、そのうち参加費徴収は 840 名であったが、そのうち非会員が 161 名、非会員学生が 209 名と非会員からの参加を確保できた。

上記会計案を公認会計士の馬目先生にご確認いただく予定である旨が報告された。

次に、各学会本部からの補助金を除き、2 学会の会員数比案分を反映させた額に日本生体医工学会の本部補助金を再度加えた、日本生体医工学会のみの収入内訳について報告され、本部補助金として返金する 3,720,000 円に加えて、最終的に 502,486 円の黒字となった旨が報告された。

上記報告に対して、今大会において多くの非会員参加を獲得できた理由について質問があった。それに対して、オンライン化されたことで興味をもった学生の参加の可能性が挙げられ、登録情報から詳細確認が可能であることから、今後の学会大会参加者の増加につなげるための調査を行い、調査後に理事会にて報告する事とした。

#### 4. J-STAGE Data の利用申請に伴う JST との契約締結の承認【審議 F】 横澤理事

JST のデータレポジトリ“J-STAGE Data”の利用申請に伴う JST との契約締結について報告された。

2019 年 3 月にリリースされた J-STAGE Data の利用によって、従来の Supplementary Information と比較して、独立した DOI、メタデータが付与される点、CC ライセンスが付与されるほか、外部サービスとの連携により検索されやすくなるため、元論文の visibility 向上が期待される旨が報告された。公開内容としては、表、グラフ、写真、動画、ソフトウェア、プログラム、プロトコルなどが想定され、JST は、掲載・公開される研究データおよび付与される情報の取り扱いに関する基本方針について、J-STAGE Data データポリシーを策定している。個々のデータの J-STAGE Data への採否は利用機関および著者が決めることとなり、また、論文と同様に（同時に）査読が必要である旨も報告された。

契約締結の審議に先駆け、費用面の詳細について、JST 担当者に費用と作業を確認したところ、現状は無償サービスを提供しており、可能な限り継続する旨回答を受けた旨が報告された。

上記に基づき、契約締結の承認について審議いただきたく、承認された場合には、生体医工学誌、ABE 誌の投稿規定の改訂が必要となるため、今理事会では報告に留め、次回以降の理事会で投稿規定の改訂を承認いただきたい旨報告された。なお、生体医工学誌は投稿規定が短いため、現行の規定に追記すると内容が不自然になってしまうことが懸念される。よって、生体医工学誌においては、投稿規定と別途で、“日本生体医工学会における学術論文のデータ公開に関する指針”としてまとめ、ABE 誌においては、“Instructions to Authors”に指針を追記して改訂予定である旨が報告された。

上記に対して、データ公開の諾否は当該論文採否とは無関係とするのかについて質問があった。これに対して、今後の論文の根拠にかかる部分として重要なデータは J-STAGE Data を活用することを推奨するが、公開しなかった場合にそれをもって Reject するということは別の話であるため、何らかの取り決めも必要かという回答がなされた。また、付属データの正当性を検証する作

業が編集委員会の負担となることが懸念されるため、データに対する確認をどこまで、どのような方法で行うかの内規は定めておくべきかという意見があった。生体医工学シンポジウム論文では近年データ公開を促していることもあり、2022年度からはそれら規定を活用できるよう、J-STAGE Dataに掲載するデータの確認をどのように行うかを定めていきたい旨が回答された。

上記議論に基づき、JSTとの契約締結については全会一致で承認された。

## 5. 第42回第2種ME技術実力検定試験 実施状況報告【報告H】 中島(章)理事

第1種ME技術実力検定試験の実施結果について報告された。第1種ME技術試験はオンライン((一社)全日本学習振興協会)での実施となり、受験者数は136名、合格者は49名(合格率:36.6%)であった。従来の受験者数より減少したが、これは昨年度の2種試験が中止となり、従来は2種試験合格後に1種試験を受験する流れであり、その影響を受けたためと考えられる。

オンライン試験実施にあたり、カンニング防止用カメラが動作しない、接続できない等の問題が生じ、受験不可能となった受験者が2名生じた。これは事前に接続チェックを行った環境と異なる環境で試験を行おうとした、あるいは事前配布したカンニング防止用カメラではなく、受験者のPC上のカメラで接続チェックを行った、等が原因である。これらの2名の受験者について、受験料を返金する形で対応を行い、クレームなどはなかった旨が報告された。

本件について、来年度に受験者が増加した場合も同様の形を取れるか質問された。それに対し、3月に全日本学習振興協会による別のオンライン試験を700名規模の受験者数で問題なく実施できたことから、本年度の1種試験のフィードバックと合わせることで、受験者数が従来の400人規模になっても実施可能である旨が報告された。また、1種試験の実施に先立ち、オンデマンドでの講習会も実施された旨が報告された。

1種試験合格者の49名について、全会一致で承認された。

続いて第2種ME技術実力検定試験の準備状況について報告された。実施予定日は2021年9月12日であり、実地開催を予定している。COVID-19感染対策として、以下の点を従来から変更している。

- ・試験開始時間を遅らせ、受験者の昼ご飯の時間を省略(会場内での食事禁止、ただし飲水、及びゼリー状のものは可)

- ・小論文の廃止、及び午前・午後で試験問題分野を均等に出题(最悪、午前あるいは午後のみを受験でも可否判定可能)

- ・1つの会場につき、受験者人数が1,000名以下となるように調整

現時点での応募者は7,116人であり、昨年度よりも1,000名ほど増加している。また、COVID-19感染防止対策における注意事項を作成し、生体医工学会HP上で公開された旨も報告された。更に本年度の試験では、COVID-19関係で様々な事象が予想されることから、

- ・新型コロナウイルス感染症拡大防止の対応

- ・受験料返還対応

及びそれに伴い必要となる様式(ME2種濃厚接触様式、ME2種返金申請書様式)を新たに作成し、ME技術教育委員会のWebページへ情報提供する旨が報告された。更に監督者、及び補助監

督者に対しても、試験実施 1 週間前より体調記録表に記録して頂くこととした。これらにより試験当日、安全に試験を実施したい旨が報告された。

本件について、本試験は病院実習や卒業認定、就職活動などで利用されており、また昨年度実施されなかったことから実施要望が高く、公益に基づいた開催であり、安全が確保できる環境であれば、実施する方向で進める旨が報告された。

## 6. 生体医工学 web 用語辞典の執筆・編集状況【報告 J】 平田理事

生体医工学 web 用語辞典の執筆・編集状況の進捗について報告された。

7 月末締切として編集を進めていたが、現在、執筆完了が 23%、編集中が 32%であり、前回報  
告からは執筆が進んだが、未だ 45%が未執筆の状況であるため催促していききたい旨が報告された。  
集まった記事は生体医工学誌増刊号に掲載し、DOI を付与する予定であり、編集委員会の横澤理  
事と連携している。出版されたテキスト「医療に生かす生体医工学」のキーワードとして掲載さ  
れている用語を中心に、早急に第一分冊として公開し DOI を付与していききたい旨が報告された。

## 7. 会員配信メールについて【報告 M】 井村理事

会員へのメールによる情報発信方法を、これまでの事務局アドレスからの配信から、Google  
Workspace のグループ機能を使用した jsmbc.org ドメインからの配信に変更した旨が報告された。  
従来の配信方法と比較し、手数料が安価であり、また送信元が jsmbc.org ドメインであるため、  
日本生体医工学会から発信した情報であることが明確になるという利点がある。一方で支部単位  
などの会員の一部を対象とした配信は行えないが、特定の支部・専門別研究会向けのアナウンス  
であっても相互の活動を知ることは有意義であり、学会の活性化につながると考えるため、原則  
として情報の配信は全会員に向けて行う。配信可否判断は、木村裕一先生（近畿大学）、黒田嘉宏  
先生（筑波大学）、吉野公三先生（関西学院大学）、井村誠孝先生（関西学院大学）で行う旨が報告  
された。

本件は既に動き出しており、引き続きこの方式で進めていく旨が報告された。

## 8. 生体医工学シンポジウム 2022 日程と会場について【報告 P】 大城理事

2022 年度の生体医工学シンポジウムの日程と会場について報告された。2022 年度は 9 月 9 日  
(金)・10 日(土)に、関西学院大学 西宮上ヶ原キャンパスにて開催予定であり、発表形式はポスター  
発表である。開催方法は現状未定であり、COVID-19 の状況を踏まえて判断する予定である。  
また学内開催のため、オンライン開催になった場合でもキャンセル費用はかからない。また、他  
学会大会との重複は現状見られない。

また、2023 年は熊本大学で開催予定であり、追って理事会にて進捗報告を予定しており、2024  
年度は関東地区で開催予定である旨が報告された。

本件について、開催日時が ME2 種試験の実施日と重複しないか、あるいはシンポジウムと 2 種

試験実施日が連続することはないか質問された。本件について、従来2種試験は9月の第1日曜日実施であるため重複は起こらず、本年の2種試験の開催日時がずれたのはオリンピック開催のためであった旨が報告された。

## 9. 生体医工学シンポジウム 2021「ポスターアワード選奨」【審議 U-6】 中島（一）

### 理事

生体医工学シンポジウム 2021 でポスターアワード、及びレビューアワードを実施する予定である旨が報告された。今回は COVID-19 の状況に鑑み、完全オンラインで実施予定である。

本件について、選奨委員会に関する記載がないため、M系E系それぞれの委員会のメンバーリストを提出頂いた後、アワード実施の可否についてメール審議を行うことが決定した。また、現状の選奨委員候補の先生方の委員会参加の可否の返答締切は9月5日であるため、それ以降でなければリストを提出できず、必要に応じて締切時期を早める等調整を行う旨が報告された。

また、生体医工学シンポジウム 2021 の教育講演と特別講演について報告された。本シンポジウムは LIFE2020-2021 との同時開催であり、合同企画として、以下の講演を一般公開してよいか、審議が行われた。

#### ・ LIFE2020-2021 からの提供

##### 特別講演

9月17日（金）13:15-14:15

演題：臓器を待つ人のために：科学と医工学による臓器再生への構想と取り組み

講師：中村真人（富山大学学術研究部工学系 教授）

#### ・ 生体医工学シンポジウム 2021 からの提供

##### 教育講演

9月17日（金）14:30-15:30（予定）

演題：日本生体医工学会の仕組み・内実・関わり方 そしてお願い

講師：木村裕一（近畿大学 教授、日本生体医工学会 前理事長）

なお、生体医工学シンポジウム、及び LIFE2020-2021 は、それぞれ別の Zoom アカウントで実施する予定だが、上記講演を一般公開する場合、これらの講演のみ YouTube Live で配信する予定である。これにより ID の切り替え、参加人数の制限、Zoom ボミングなどの心配がなくなる。

本件について、全会一致で承認された。

## 10. 厚労科研の採択について【報告 Q】 黒田理事

令和3年度厚生労働行政推進調査事業費補助金（厚生労働科学特別研究事業）に採択された旨

が報告された。採択内容は、以下の通りである。

研究課題名：臨床研究法が医療機器開発研究に与えた影響の実態把握に向けた調査研究

研究内容：医療機器開発研究の実態を勘案した早急な運用改善を図るべく、アカデミアや医療機器メーカーを対象として、医工学研究者が自ら実施しようとした研究の臨床研究法への該当性判断に悩んだ具体的な事例を調査・集積し、実態把握を行うとともに、研究者等の判断の指標となるような事例集の作成

評価点数：7.8 点

交付基準額：2,816,000 円

これにより学会として事例集を収集し、厚生労働行政に反映させ、生体医工学研究の不利にならないような法改正を目指す旨が報告された。

## 11. 専門別研究会における選奨の推進と定期大会での受賞講演枠の新設について（案）

### 【報告 R】 芦原理事

昨年度までの2年間に専門別研究会の運用にかかる見直しを行った旨が報告された。日本生体医工学会を活性化する目的で、新設の専門別研究会の紹介記事の学会誌への掲載を進めるとともに、定期大会における専門別研究会への企画助成を行ったが、コロナ禍の影響もあり期待通りの応募がなく、新たな方策が求められている。

そこで、2021年6月28日に開催された専門別研究会協議会での議論に基づき、以下のような方向性を考えている。

- ・専門別研究会において日本生体医工学会を冠する選奨の新設推奨
- ・専門別研究会で日本生体医工学会を冠する選奨に対しての賞金補助
- ・専門別研究会での受賞者に対して定期大会における受賞講演枠の設定

これらについて、現段階ではまだ細かな調整はできていないため、本理事会では方向性の意思表示のみを行い、承認は求めず、次回の理事会で、改めて審議をお願いしたい旨が報告された。

本件について、今の選奨規定の範囲でも、選奨の新設は可能であり、選奨規定を更新してまで、専門別研究会での選奨を追加する必要があるのか、またそれにより活性化に繋がるのか質問された。それに対し、現状での選奨規定では、新設が困難であるという声があるのも事実であり、その溝を埋める意味でも追加する価値がある旨が回答された。また、賞を新設する場合は一定の公益性が求められるため、その点をきちんとして頂きたい旨が指摘され、全ての賞は理事会承認を得るという形をとり、公益性を維持することになっている旨が報告された。

以上の議論より、詳細はたたき台を作成した後、内容を詰めていく旨が報告された。

## 12. YIA 及び生体医工学サマースクールに関する報告【報告 R-2】 荒船若手研究者活

### 動 WG 長

第 60 回日本生体医工学会大会において、YIA セッションが開催された旨が報告された。本セッションでは 47 演題の応募があり、医学系、工学系それぞれ 1 名の最優秀賞、及びそれぞれ 2 名の優秀賞受賞者を決定し、オンライン懇親会において、守本理事長より表彰された旨が報告された。

また、生体医工学サマースクールが、8 月 21~22 日の 2 日間で開催された旨が報告された。今年度は看護理工学会との一部合同開催を行い、Zoom と SpatialChat を併用し、オンラインで開催された。話題提供として宮下 光令先生（東北大学）、及び深谷 基裕先生（愛知医科大学）にご講演頂き、その内容を受け、3-4 名で構成されたグループでプロトタイピングを実施した。その活動成果に対して審査を行い、最優秀 1 分プレゼン賞、相互投票賞、最優秀賞受賞者を決定し、表彰した旨が報告された。本件より、プロトタイピングを含むサマースクールの開催を、オンラインでも実施可能であることが示された。

## 13. 東海地区の選奨規定について【審議 U-5】 渡邊東海支部長

2021 年 10 月 23 日（土）にオンライン開催される日本生体医工学会東海支部大会において、東海支部大会研究奨励賞を設定したい旨が報告された。筆頭著者のうち 2 名を表彰し、学部生、院生、研究者の区分と年齢は問わないが、受賞時には学会員になっている必要があるとする。また受賞者には、賞状と賞金（10,000 円）を授与する予定である。

本件について、全会一致で承認された。

## 14. 新潟大会 準備状況報告【報告 T】 堀 第 61 回大会実行委員

第 61 回日本生体医工学会大会の準備状況について報告された。開催日時は 2022 年 6 月 28-30 日、会場は朱鷺メッセで行う予定であり、テーマは「新時代に向けた生体医工学」である。現在、ホームページを開設し、ポスター原案をダウンロード可能となっている。また、第 60 回日本生体医工学会大会において、椎名第 60 回大会長の方からアナウンスが行われた。更に運営事務局の方で銀行口座が開設された。また、協賛企業を依頼予定であり、趣意書が完成次第、過去大会の協賛企業へ発送予定である。また新規協賛企業にも依頼を行う予定である。

特別企画について、現在招待講演 1 件、特別講演 4 件を計画中である。招待講演については承諾を得られているが、特別講演についてはまだ承諾を得られていない。教育講演等については後日検討を行う予定である。

情報交換会について、会場候補として、ホテル日航会場 4F、ホテル日航展望室などを考えている。ただし COVID-19 の状況を鑑み、人数を 250 名程度に制限する必要があると考えられるため、この点についてどのように行うかは検討中である。

大会プログラムについては冊子体で事前発送を予定している。また抄録集は pdf 形式での配布

を行う予定である。

非会員の参加費は、非会員の参加が増えるよう、継続的に審議を行っていく旨が報告された。

また、学会からの企画提案は、まだまだ受け付けられるため、積極的にプログラムに加えていきたい旨が報告された。

#### 15. 2021 年度 各委員会・WG 委員の承認【審議 V-1】 守本理事長

利益相反委員会、広報委員会、財務委員会、選奨委員会について、それぞれの委員長が決定し、また臨床工学技士会連携 WG のリストが作成されたため、報告された。現状、リスト未提出の委員会が未だいくつかあり、リストの作成と提出を行うよう報告された。また、リストが昨年度と同様の場合も、更新という形で提出するよう報告された。

上記の委員長、及びリストについて、全会一致で承認された。

#### 16. 新入会 退会 承認【審議 V-2】 村垣理事

第 2 回理事会における入退会審査について、入会希望が正会員 11 名、準会員 5 名で、退会希望が正会員 5 名、準会員 1 名である旨が報告された。

上記に対して、入会希望のうち推薦者がいない 2 名の先生については、略歴書が提出されている旨が報告された。また、今回の入会希望者の増加について、生体医工学サマースクール参加者がそのまま入会して頂いた影響が大きい旨が報告された。

以上の入退会者について、全会一致で承認された。

以上

議事録署名人 \_\_\_\_\_

議事録署名人 \_\_\_\_\_

議事録署名人 \_\_\_\_\_